

2章 伊豆の国市の文化財の概要

1 伊豆の国市内文化財の概要

(1) 指定等文化財の状況

伊豆の国市において、国・県・市により指定・登録されている文化財は、国指定が13件（うち国宝1件）、県指定が11件、市指定文化財が36件、国登録が3件の合計63件である。市内に所在する文化財の指定・登録の状況は以下のとおり。なお、各文化財の詳細については資料編に記載する。

表 2-1 伊豆の国市内の指定・登録文化財の状況（令和4年3月現在）

類型		国指定・選定	県指定	市指定	国登録	合計	
有形文化財	建造物	1	1	0	3	5	
	美術工芸品	絵画	0	1	0	0	1
		彫刻	1	5	4	0	10
		工芸品	0	2	1	0	3
		書跡・典籍	0	1	0	0	1
		古文書	0	0	4	0	4
		考古資料	1	1	4	0	6
歴史資料	2	0	6	0	8		
無形文化財		0	0	0	—	0	
民俗文化財	有形	1	0	0	0	1	
	無形	0	0	4	—	4	
記念物	遺跡	6	0	10	0	16	
	名勝地	0	0	0	0	0	
	動物、植物、地質鉱物	1	0	3	0	4	
伝統的建造物群		0	0	0	—	0	
文化的景観		0	—	—	—	0	
合計		13	11	36	3	63	

0：該当なし、—：制度なし

(2) 世界文化遺産の概要

ア 「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の概要

「明治日本の産業革命遺産」は、西洋から非西洋への産業化の波及を顕し代表する、日本国内8エリア、23資産から構成されており、平成27年（2015）7月、世界文化遺産に登録された。23の資産のうち、伊豆の国市には韮山反射炉が所在する。

19世紀の半ばから20世紀の初頭にかけて、日本は工業立国の土台を構築し、製鉄・製鋼、造船、石炭産業という重工業分野において、急速な産業化を成し遂げた。産業化の歩み

は、蘭書片手に試行錯誤での鉄製大砲製造への挑戦や、洋式船の模倣から始まった。次に、西洋技術の導入が行われ、専門知識の習得を行った。明治の後期には、国内で人材が育ち、積極的に導入した西洋の科学技術を国内に適合するよう改良を加え、産業経済の基盤を築いた。このようにして、日本は非西洋諸国で初めて産業革命の波を受容し、50年余りという短期間に、植民地にならず自らの手で産業化を成し遂げた。

イ 「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産

<エリア1 萩> (山口県)

はぎはんしゃろ えびすがはなぞうせんじょあと おおいたやま せいてつせいせき はぎじょうかまち しょうかせんじゆく
萩反射炉、恵美須ヶ鼻造船所跡、大板山たたら製鉄遺跡、萩城下町、松下村塾

<エリア2 鹿児島> (鹿児島県)

きゆうしゅうせいがん てらやますみがまあと せきよし そすいこう
旧集成館、寺山炭窯跡、関吉の疎水溝

<エリア3 韮山> (静岡県)

韮山反射炉

<エリア4 釜石> (岩手県)

はしのてつこうざん
橋野鉄鉱山

<エリア5 佐賀> (佐賀県)

みえつかいぐんじょあと
三重津海軍所跡

<エリア6 長崎> (長崎県)

こすげしゅうせんぼあと ながさきぞうせんじょだいさんせんきょ
小菅修船場跡、長崎造船所第三船渠、
ながさきぞうせんじょ
長崎造船所ジャイアント・カンチレバーク
レーン、ながさきぞうせんじょきゆうきがたば ながさきぞうせんじょ
占勝閣、たかしまたんこう はしまたんこう 旧グラバー住宅

<エリア7 三池> (熊本県)

みいけたんこう みいけこう みすみにしこう
三池炭鉱・三池港、三角西港

<エリア8 八幡> (福岡県)

かんえいやはたせいでつじょ おんががわすいげんち しつ
官営八幡製鐵所、遠賀川水源地ポンプ室



図 2-1 明治日本の産業革命遺産
エリア位置図

ウ 「明治日本の産業革命遺産・製鋼、造船、石炭産業」の関連自治体

山口県、はぎ市 (山口県)、鹿児島県、鹿児島市 (鹿児島県)、静岡県、岩手県、かまいし市 (岩手県)、佐賀県、佐賀市 (佐賀県)、長崎県、長崎市 (長崎県)、熊本県、あらお市 (熊本県)、うき市 (熊本県)、福岡県、おおわた市 (福岡県)、北九州市 (福岡県)、なかま市 (福岡県)

(3) 未指定文化財の状況

伊豆の国市において把握している未指定文化財は計 108 件である。市内に所在する未指定文化財の状況は以下のとおり。なお、各文化財の詳細については資料編に記載する。

表 2-2 伊豆の国市内の未指定文化財の把握状況（令和4年3月現在）

類型			
有形文化財	建造物	20	
	美術工芸品	彫刻	2
		工芸品	2
		考古資料	1
		歴史資料	50
無形文化財		1	
民俗文化財	無形	4	
記念物	遺跡	28	
合計		108	

2 文化財の類型ごとの概要

①建造物

伊豆の国市では、「江川家住宅（重要文化財）」・「旧上野家住宅（県指定）」・「菅沼家住宅（国登録）」などの民家、「三養荘本館（旧岩崎久彌別邸）（国登録）」・「中川家住宅（国登録）」などの温泉利用を目的とした別荘建築が所在する。また、未指定であるが、多数の寺社が市内に広く分布している。

②美術工芸品

菰山代官を務めた江川家に関する「菰山代官江川家関係資料（重要文化財）」・「江川家関係写真（重要文化財）」等の歴史資料、「木造阿彌陀如来坐像 運慶作（国宝）」を含む運慶作諸仏5軀や「木造阿彌陀如来坐像（県指定）」・「木造金剛力士立像（県指定）」などの鎌倉北条氏等に関する慶派の彫刻が多数残されている。また、「石櫃／若舎人の刻銘がある 附 須恵器（重要文化財）」や「白石の石棺（市指定）」・「大塚4号墳出土遺物（市指定）」及び「大塚6号墳出土遺物（市指定）」など、遺跡から出土した考古資料も豊富である。さらに、「本立寺の梵鐘（県指定）」をはじめとする工芸品、「香山寺文書（市指定）」をはじめとする古文書等が所在する。

③無形文化財

伊豆長岡温泉街の発展と共に成長した芸妓は、舞踊、三味線、民謡、小唄、端歌等を師匠から習い、お座敷で披露し、昭和30年代には芸妓の人数は400名を超えた。現在では芸妓の人数は数名となったが、今もなお伊豆長岡の温泉旅館のお座敷で芸妓の芸を披露している。

④有形民俗文化財

韮山山木地区を中心とする山木遺跡から出土した「山木遺跡の生産・生活用具（重要有形民俗文化財）」がある。この指定品は、木器・土器類などの生活用具や、農耕関係の用具類など、弥生時代後期の生活や、後世の農耕に関わる生産用具や生活用品との関連を考える上で重要である。また、旧大仁町で栄えた工業に関連する、「東洋醸造関係の酒造資料（未指定）」がある。

⑤無形民俗文化財

市内の主な無形民俗文化財としては、神社芸能殿（舞殿）において奉納される「田京の三番叟（市指定）」をはじめとする5地区の三番叟と、狩野川で水霊を鎮め、水難者の供養と共に地区の安全を願う「かわかんじょう（市指定）」がある。

⑥遺跡（史跡）

市内には、「韮山反射炉（国指定史跡）」や「韮山役所跡（国指定史跡）」をはじめとする遺跡が多数所在している。

7世紀後半から8世紀前半にかけて、伊豆長岡地区の江間地域では、「北江間横穴群（国指定史跡）」をはじめ、崖面に横穴を掘った横穴墓群がつけられた。

中世以降では、「北条氏邸跡（円成寺跡）（国指定史跡）」や「願成就院跡（国指定史跡）」など、鎌倉北条氏に関連する史跡が残っている。また、「伝堀越御所跡（国指定史跡）」や「韮山城跡及び附城跡群（未指定）」など、小田原北条氏に関する遺跡も残る。

なお、旧石器時代から近世までの遺跡230件を埋蔵文化財包蔵地として登録している。

⑦動物、植物、地質鉱物（天然記念物）

北伊豆地震により魚雷に痕が刻まれた「地震動の擦痕（国指定天然記念物）」は、全国的に見ても珍しい地質関連資料である。また、「熊野神社の杜（市指定）」や「広瀬神社の杜（市指定）」等の寺社の社叢が指定となっている。

⑧その他

伊豆の国市内では、名勝地、文化的景観、伝統的建造物群、文化財の保存技術については未確認である。